



市民マラソン

(1月23日)

スタート地点の市サッカー・ラグビー場

本市でも急激にすすむ少子高齢化 だからこそ 充実させたい 福祉・医療・子育て

「北茨城市地域福祉計画」によると、本市の炭鉱閉山後における人口のピークは平成10年で、5万2504人に達しました。それ以降は減少に転じ、平成21年では4万7374人でした。平成27年には4万5000人を下回ると予測されています。

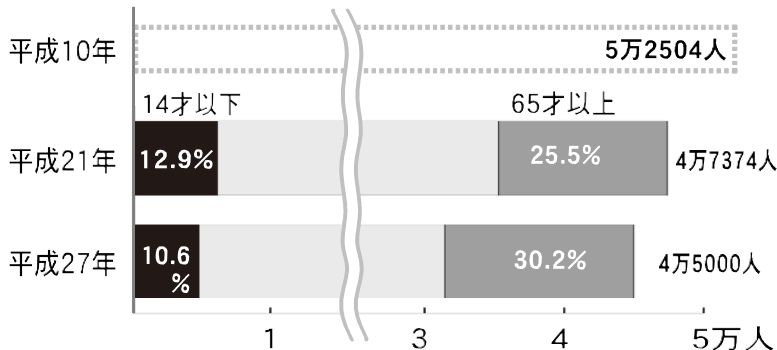


日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行
市議会ニュース

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468
市議会議員
鈴木やす子
42-2462

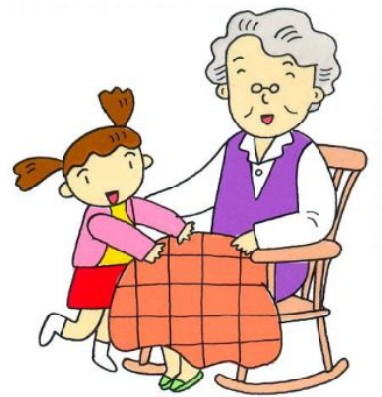


本市の人口と年齢構成の予測 (「北茨城市地域福祉計画」から)

市民の約3人に1人が65歳以上という超高齢化を迎えると思込まれていきます。いっぽう、年少人口(14歳以下)は、12・9%から10・6%まで減少すると見込まれます。

「福祉サ-ビスの総合化」、人にやさしいまちづくり(在宅サ-ビスの充実)、心をほぐくむまちづくり(子育て支援の環境整備)、市民とともにあゆむまちづくり(福祉活動への市民参加)を推進するとされています。その具体策として市立総合病院を核として保健・医療・福祉の連携、在宅支援センターや地域包括支援センターの強化、乳幼児保育など特別保育の充実をはかるとしています。

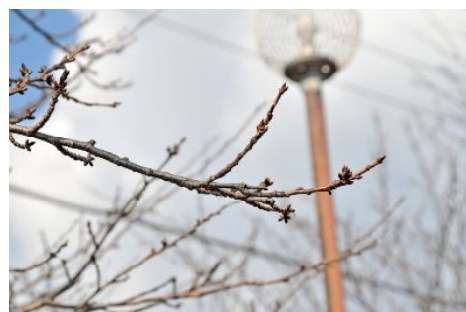
日本共産党市議団は「介護保険や国保料が高くて、年金だけでは暮らしていけない。子どもが小さいのにリストラされて再就職できない等々の切実な声も寄せられている。少子高齢化社会のなかで、福祉・医療・子育ての充実は待ったなしの課題。今後とも身近な相談相手として、市民の



いのちと暮らしを守るために全力をつくす」と述べています。なお現在、市内で最も高齢者人口割合が高いのは関本町才丸地区41・9%、同町小川地区41・8%です。年少人口の割合が最も高いのは華川町白場地区で20・8%でした。

立春

わずかに春の訪れ



強い冷え込みが一段落して、ここ数日、温かい陽射しが心地よく感じ

られます。暦の上では2月4日が「立春」。市内山間部の福寿草も、例年よりやや遅れ気味ですが、これから見頃をむかえそうです。桜もまだ固いとはいえず芽が膨らみはじめています。磯原駅西地区、花園川の堤防脇には「磯原中央公園」が造成中で、3月には完成予定です。今年の花見には格好の場になりそうです。



みなさん
お誘い
あわせて



第3回「ひな祭り」から

第4回ひなあかり
2月7日~12日
市内各所の参加店

ガラス作家・馬越寿氏の制作現場公開
2月10日~14日
ガラス工房「シリカ」



昨年の「百里・初午まつり」

百里「初午まつり」
2月11日(金)
12:00~ 小美玉市の自衛隊百里基地内にある百里平和公園(茨城空港の対面側)にて
(乗り合わせご希望などお問合せは本紙編集部まで)

公開講座「先人からの贈り物」(漢方薬について)
2月19日(土) 13:00~ 市民ふれあいセンター
北茨城市・いわき明星大学 共催

北茨城シネマクラブ「しゃべれども しゃべれども」
2月27日(日) 主演・国分太一